

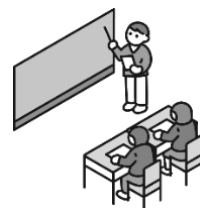


「生徒は担任、顧問が好きです!」

と聞いてどう思いますか? 「私の魅力をもってすれば当然だよ!」と納得されるのか、または「そんなことないよ、生徒たちに嫌われている感じがする」と落胆してしまうのか。

実は「生徒は担任、顧問が好きです」という言葉は「人は身近にいて日々会う人を好ましく思う」という、心理学でいう「単純接触の原理」を言い換えた言い方です。教職を長く経験した方なら、これが真実であることを先輩から教えられるか、実際に体験していることでしょう。しかし、そのような視点を共有できないと、生徒との関係性を客観視しづらいかもかもしれません。この意味で、職場で活発に話ができて多くの角度から教育活動をコメントしあい、客観的に振り返りができることは大切だと思います。すなわち、集合知、集団的知性です。職員に余裕があって、教育法の精神通り「常に研修」を各自が主体的に行っていれば、この集合知は生徒を伸ばす最大の教育力になると思います。ところが、2019年の神戸教員いじめ・暴行事件、また昨年の旭川女子中学いじめ凍死事件の分析記事を読むと、職場の同僚性や集合知が発揮されるどころか、逆に閉鎖的な歪んだ人間関係から暴力的な状況が拡大されてしまっていると読み取れます。全日本教職員組合が発行している教育誌「クレスコ」1月号によれば、教職員の多忙化、孤立化は進み、ここ10年の「心の不調による休職者」は毎年5000人前後で増加傾向、誰もが何かのきっかけで鬱状態になってしまう状況があります。「教育予算の増額を!職員の多忙、過労の解消を!」という切実な叫びを大きな世論にしていこうではありませんか。

組合本部には時々職場ハラスメントの相談が寄せられますが、組合と県教委との集合知を活用して解決するようにしています。全国の例として「自分の能力や勤務時間を大きく超えての仕事の依頼」「遠征先でのコロナ感染の責任を一方的に負わされた」「書類や授業案の度重なる書き直し指示」といったものが最近報告されましたが、群馬でも類似事例があります。「余裕がなくて何か変だな」と同僚に相談しても解決が見えない時は組合への相談も考えてみてください。



高校入試の改善も部活動問題も集合知で解決しよう!

入試の時期に当たり、幾つかの職場では昨年の茨城高校入試採点ミス事件(52校406件のミスによる処分)が校長から伝えられました。この、記述式問題の多さを主因とする問題については、昨秋の対県交渉でも私達は再三指摘をし、改善を要求しています。東京、神奈川のようなマーク式であれば公平性を担保できるとともに職員の過重負担も減らせ、さらに在校生の学習時間も確保できます。最近のニュースでは愛知県でもマーク式を23年度から導入とのこと、各県での議論が続いています。また、愛知県では「愛知部活動問題レジスタンス」(部活動問題に特化した教員組合)が結成されたことも先月、本部に連絡がありました。

こうした全国の組織、また教育学者たちの提言を参考にして共同していると「集合知の可能性」を感じます。これを基に世論が高まり、マスコミ、文科省、国会議員とどんどん巻き込んでいくと解決に繋がるのだろうと考えます。最近では、「公立学校の教員不足約2000人(定員基準違反)」が文科省の初めての調査で明らかとなり、マスコミが大きく報道しました。これも長年にわたる運動の成果です。教育予算の増額に繋がりたいものです。

教職員の正規採用を増やしましょう!せめて定員の充足を!

群馬高教組 HP を更新中です!

HP はこちらから <http://www.ghtu.org/> →



TEL : 027-231-2784 / FAX : 027-231-2787 / Email : ghtu@educas.jp